



地元企業を紹介!

問合せ まちの活性課 (☎469-3131)

市内の地元企業を、地元の高校生が訪問して紹介します。今回は、湊にある「ナンカイ工業株式会社」を、府立佐野高等学校の生徒お二人が訪問しました。

今月の地元企業

ナンカイ工業株式会社

- 所在地 湊1丁目3-1
- 代表取締役 会長 山岸彌平
- 主な業務内容

1920年の創業以来、3月に創業100周年を迎えるナンカイ工業株式会社では、現在、事業の柱が大きく分けて三つあります。一つ目は紡織機械の部品の製造です。経糸(たていと)を通し緯糸(よこいと)と合わせて織り込むための部品である「ヘルドフレーム」の生産は世界シェアトップで、世界市場においてグローバルな支持を得ています。二つ目は建築資材の金型部品の製造で、繊維機械部品の製造技術を応用し、安心安全な住まいを陰で支えるさまざまな建築部品を製造しています。三つ目は物流機器関係の部品の製造で、お客様の要望に応じてより良い製品を作るという方針のもと、日々のモノづくりに取り組んでいます。



◀代表取締役 会長
山岸彌平さん



Q 海外にも生産拠点がありませんか?
A 中国に拠点を1カ所持っています。これは、1980年代に入り、中国の経済改革開放政策により「一万元戸」と呼ばれる富裕層が生まれ、繊維の需要拡大が見込まれ関連企業の進出がはじまる中、部品も現地調達を要望されるようになり、その要望に応える形で進出が決まりました。ですから、海外進出の目的の1つは、現地での部品の修理と補充です。また、もう1つの目的は自社ブランドのPRであり、偽ブランドへの対応にも努めました。



高校生のさまざまな質問にナンカイ工業株式会社のみなさんが丁寧に答えていただき、とても和やかな雰囲気での企業訪問が行われました。

「ヘルドフレーム」の説明や、製造過程の見学もありました。



Q 創業以来100年の歴史をもつ会社で、長く続けていくために心がけている事はありますか?
A まず、「先人たちの先見の明を活かす」ことです。先人の方々ががんばって来られたから、現在の私たちがいます。初代社長の遺訓にある「現在の製品をより良くする事」を基本に、自分たちの

Q 海外進出と同時に、国内でも外国人労働者を受け入れておられますか?
A ナンカイ滋賀工場で、派遣会社を通じて20人が働いています。工場全体で70人とあまり大きくない規模という事もあり、フレンドリーな関係を築きながら働いてもらっています。

モノづくりに取り組んでいます。次に、お客様と良い関係を築きながら成長していくことです。仏教に「和顔愛語(わげんあいご)」「穏やかな顔つきとやさしい言葉遣い」という言葉があり、鎌倉時代に曹洞宗を開いた道元は「愛語よく廻天の力あることを学すべきなり」と言っており、「愛語」の重要性を説きました。廻天の力というのは天を引き回す程の力という意味ですが、これを私達の会社に置き換えて、「和」の力で全体が成長すること、ONE TEAMで仕事に臨むことを大切にしています。また、「和」を大切にし、みんな協力して成長するという事については、みなさんの学校生活でも同じことが言えるのではないのでしょうか。



▲訪問した府立佐野高等学校2年生の大丸かりんさん(左)と木曾麻子さん(右)